

大学生活、 困った時どこへいく？



保健管理センター



学生や教職員の心と体の健康を支える総合窓口

大学の保健室のような役割を担い、体調不良やケガ、心の悩みなど、大学生活の中で生じるさまざまな健康相談に対応しています。センターには医師や保健師、臨床心理士が在籍しており、必要に応じて医療機関とも連携。健康づくりから不調時のサポートまで幅広く担う、大学生活のヘルスサポート拠点として、学生や教職員の健康を支えています。



身長・体重計、血圧計、InBody等を入口近くに設置しています。気軽に利用してください。

こんなとき… おまかせください！

健康診断の結果が気になる



健康診断で再検査や受診を勧められた場合もサポートしています。また、結果の見方や今後の対応についてなど分からないことは何でも相談してください。必要に応じて医療機関も紹介しています。

心の状態が不安定



最近なんだか気分が落ち込む、眠れない、人間関係がづらい。そんな時は一人で抱え込まず相談してください。プライバシーに配慮した空間で臨床心理士が話を聞き、一緒に解決の糸口を探していきます。(予約制)

InBodyを利用したい



体脂肪率や筋肉量などを測定できる機械InBodyを無料で利用できます。運動の成果確認や健康管理にもおすすめ。健康維持のためにも、自分の体の現在地を知ることとはとても重要です。

ケガ・病気をしてしまった



授業中の体調不良や発熱、課外活動のケガなどにも対応しています。応急処置や休養のほか、症状に応じて薬の提供や医療機関を紹介。症状に応じて専属の医師が数日分の薬もお渡ししています。

心身の健康をサポートします

大学生活では、体調を崩したり、ケガをしたり、心の不調を感じたりすることがあります。保健管理センターは、そんな時に学生の皆さんを支える身近な相談窓口です。最近では、自分でも原因が分からない生きているさや悩みを抱えて相談に訪れる学生も少なくありません。バリアフリー支援室との違いは、相談の段階にあります。バリアフリー支援室は、障がいや病気によって学修上の支援が必要な学生をサポートする窓口。一方、保健管理センターには、自分でも何が原因なのか分からない不調や生きづらさを抱えた学生が相談に訪れることがあります。まずは話を聞き、必要に応じてカウンセリングや医療機関につなぎ、学修面での支援が必要な場合はバリアフリー支援室とも連携します。保健管理センターは悩み相談の入口でもあるのです。自分でも原因が分からない不調は、誰かに相談すること自体が大きなハードルになることもあります。だからこそ、プライバシーに配慮した安心して話せる環境づくりを大切にしています。



保健管理センター
センター長・教授 いずみかほ みはる
泉川 美晴

和歌山県出身。香川大学医学部膠原病・リウマチ内科助教等を経て2026年より現職。専門は膠原病・リウマチ内科。総合内科、産業医。

等しく学ぶ機会を提供します

「バリアフリー支援」と聞くと、車いすや点字など、身体障がいのある人への支援を思い浮かべる人が多いかもしれません。しかし実際には、発達障がいや精神的な不調など、外からは見えにくい困りごとを抱える学生からの相談も少なくありません。例えば、「授業に集中できない」「予定管理が苦手」といった悩みを抱える学生からの相談も多く寄せられています。バリアフリー支援室では、障がいや病気のある学生が、安心して学び、学生生活を送れるよう、一人ひとりに応じた支援内容を一緒に考えています。授業や試験だけでなく、研究活動や課外活動にともなう配慮など、大学生活全般に関する相談ができます。



学生支援センター
准教授 おおぬま やすえ
大沼 泰枝

長野県出身。長野県の心理職、スクールカウンセラー等を経て2016年より現職。インクルーシブ防災に関する研究や地域の大学間連携にも力を入れている。

バリアフリー支援室



障がいや病気のある学生の学びを支える専門部署

障がいや病気のある学生が、安心して学び、学生生活を送れるよう支援する専門部署です。支援の対象は、聴覚・視覚・身体障がいのある学生だけでなく、発達障がいや精神的な不調など、外見からは分かりにくい困りごとを抱える学生も含まれます。授業や試験などで必要となる配慮について支援内容を整理。一人ひとりに応じた学びやすい環境づくりを行っています。



障がいに合わせてサポートグッズの貸し出しも行っています。

こんなとき… おまかせください！

大学の設備が使いにくい



車いすを利用する学生が使用する教室のアクセスが悪い場合は、他クラスと教室を入れ替えることもあります。またピア・サポーター※2と学内をバリアフリーチェックし、エレベーターの案内看板設置や施設改修等の環境整備を行っています。

授業が聞き取りにくい



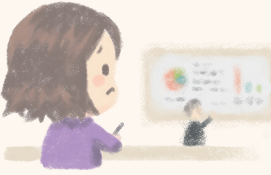
音声認識アプリを使用して、授業内容をリアルタイムに文字化します。また授業資料を事前にMoodle※1へ掲載してもらえよう教員に依頼し、授業内容を文字情報で把握した上で受講できる環境を整えます。

スケジュールがうまく立てられない



個別面談で履修計画や課題の管理、生活リズムを一緒に考えます。障がいの特性によってスケジュール管理が困難な場合は、締め切り延長などの配慮が受けられます。

スライドが見えにくい



授業資料を事前にデジタル共有してもらえよう教員に依頼し、タブレットなどで拡大表示しながら受講できるよう調整します。試験では読み取りや記述時間に配慮し、試験時間の延長も行っています。

※1 Moodle(学習管理システム) ※2 ピア・サポーター (障がいのある学生の支援を行う学生のこと)